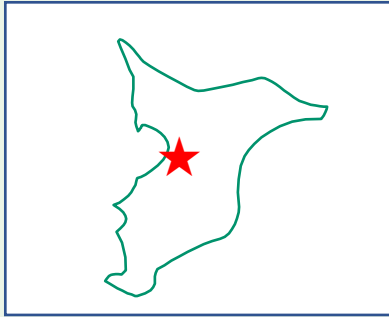


千葉市SDGs対応型施設園芸推進協議会（千葉県千葉市）

構成員：千葉県千葉農業事務所、千葉市農政センター、JA千葉みらい、農業者等

背景・課題

千葉市は、都市農業地域として温暖な気候を背景に施設園芸が盛んに行われている一方、その生産体系の多くは冬季に加温を要し、A重油を燃料とする旧来の暖房機を活用した施設が主となっていることから、千葉市の技術実証・普及の現場拠点である「千葉市農政センター」を核に、化石燃料の使用を低減し環境負荷低減を進めつつ、収量確保や品質向上による収益性向上を両立した産地育成を目指す。



みどり戦略実現に向けて

施設園芸において暖房を中心とした燃油消費によるCO2排出量削減に資するため、電力を主体とした加温技術の体系化を目指し、以下の実証を中心に取り組む。

【オール電化実証】

ヒートポンプや新素材を用いた高保温性カーテンを主に、燃油による加温設備を伴わないオール電化型の施設園芸における加温技術体系の実証

【ハイブリッド実証】

新素材を用いた高保温性カーテンおよび燃油暖房機とヒートポンプの併用によるハイブリッド型の加温技術体系の実証

成果目標

- ①化石燃料（A重油等）使用量の低減割合（令和6年度：40％）
- ②単収当たりの化石燃料（A重油等）使用量の低減割合（令和6年度：52％）

取組のポイント

①化石燃料使用量の低減

【オール電化実証】：

ヒートポンプによる加温に係るエネルギー消費を電力のみとし、加温における燃油消費をゼロとする技術体系を構築

【ハイブリッド実証】：

ヒートポンプの弱点である、加温開始時の施設内温度の立ち上がりを加速化するため、スタート時のみ燃油暖房機を活用することで、いち早く施設内温度を安定化する技術体系を構築

②単収当たりの化石燃料使用量の低減

ヒートポンプ、高保温性カーテンを用いた栽培技術に加え、省エネ型CO2発生装置の活用により、単収を向上させる技術体系を構築

取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			①② 施設整備					①② 実証				



ヒートポンプと燃油暖房機のハイブリッド運転

問い合わせ先

千葉市経済農政局農政部農政センター農業生産振興課 TEL 043-228-6280